

琉球諸語の動詞の記述研究のための調査票をめざして

狩俣繁久（琉球大学島嶼地域科学研究所）

1. 調査の目的

動詞は、人や物の動きや変化や状態を表す語彙的な意味を表し、文の中で主として述語として機能する品詞である。形態論的には、テンス、アスペクト、ムードの形態論的カテゴリーを表す形式としての活用形の体系を有している。動詞はまた、文の中で連体修飾語として名詞の前に置かれ名詞を修飾する。条件づけを表す従属複文の従属文の述語になって、主文の表す出来事が成立するための原因、理由、条件、前提、契機を表したり、譲歩的な条件やうらめ的な条件を表したりするための条件形の諸形式がある。二つの出来事間の時間的な前後関係、あるいは同時の関係を表す連用形の諸形式がある。

また動詞は、肯定否定、ていねいさ、受身、使役や授受などのベネファクティブ等の文法的な意味を表し分けるための諸形式の体系も有している。このように、動詞は、最も華やかな活用形の体系をもった品詞である。

これまでの琉球諸語の文法研究において、動詞の活用形に関する研究は、名詞に後接して名詞が文中の他の単語に対してとることがら上の関係を表す格（あるいは格助詞）に関する研究と同じかそれ以上によく研究されている。しかし、名詞を飾る連体修飾語や連体修飾節の述語位置に現れるときの連体形の現れ方についての研究は少ない。条件付けを表すつきそいあわせ文のつきそい文（以下、従属文）の述語に現れる形式が複数あるのだが、その形式の使い分けやそれぞれの形式の表す文法的な意味についての研究も少ない。

また、否定形の活用形についての記述研究は、肯定形の活用形の研究に比べて圧倒的に少ない。そこで当該方言の文法的な特徴が分かるよう、動詞の活用体系および動詞を述語にもつ文の構文論的な特徴の概要を調査するための 2 種類の調査票を本年度新しく作成し、それを基にした臨地調査を実施した。この調査票の眼目の一つが否定形の活用形の体系を明らかにする目的で 86 個の例文を用意したことである。

2 種類の調査票のうちの一つは、強変化動詞「食べる」、弱変化動詞「煮る」、不規則変化動詞「来る」の完成相の肯定形と否定形の活用形を調査するもの（以下、活用形調査票）である。214 の文を用意し、そこに示された日本語の文を方言に翻訳してもらうというものである。

もう一つは、当該方言の動詞活用のタイプがどのように分かれているかを把握することを目的に、「行く、漕ぐ、落とす、持つ、洗う、買う、食う、遊ぶ、売る、降る、切る、寝る、かぶる、起きる、降りる、呉れる、着る、坐る、蹴る、死ぬ、来る、する、ある、いる、無い」の代表形、否定形、過去形を述語に持つ文、および、「流す、着せる、注ぐ、喜ぶ、叱る、見せる、出す、掘る」等の動詞の一部の活用形を述語にもつ文の合計 172 の例文を用意した。この調査票（以下、活用型調査票）は、動詞活用のタイプを調べるこ

とのほかに、使役動詞、授受動詞、可能動詞等の形式と文法的な意味を調べるための文も用意している。

2. 活用形調査票

活用形調査票は、肯定形の活用形 128 個、否定形の活用形 86 個を調査するものである。活用形は文中での位置と機能の違いによって、終止形、連用形、連体形、条件形がある。終止形は、文末の述語に現れる活用形で、テンス、アスペクト、ムード体系を構成する。連体形は、名詞の前に置かれて名詞を修飾する活用形で、相対的テンスを表す非過去形と過去形から構成される。連用形は、ならべあわせ文のつづける文の述語になる活用形で二つの出来事の間、の先行後続、同時等の時間的な関係を表す。条件形は、条件的なつきそいあわせ文のつきそい文の述語になる活用形で、原因・理由、条件、前提、目的、契機等を表す活用形で構成される小体系をなす。

本稿は活用形調査票を使用して得られた伊江島方言と恩納村恩納方言の資料を使って活用形調査票の意図を概説するものである。

2. 1. 終止形

北琉球諸語の完成相動詞の叙述法・断定・非過去形（以下、非過去形）は、第一中止形に有情物の存在を表す動詞が組み合わさって融合したものであることが知られる。それに対して、南琉球諸語の非過去形には、そのような形跡はなく、北琉球諸語と南琉球諸語を区分する大きな指標になっている。

前述したように終止形は、テンス、アスペクト、ムード体系を構成する活用形である。表 1 は伊江島方言、表 2 は恩納村字恩納方言の終止形の活用表である。

伊江島方言、恩納村字恩納方言の非過去形も第一中止形の有情物の存在を表わす動詞が組み合わさって融合した形式（以下、シヨル対応形式）である。このシヨル対応形式は、沖縄諸方言では完成相の形式（以下、スル対応形式）に置き換わっていて、活用形の作り方を複雑なものにしている。

表 1 伊江島方言の終止形直説法

			非過去	第一過去	第二過去
直 説 法	断定	非強調	?ケン、ニユン、チュン、	?カータン、ンチャ ン、チャン	?ケータン、 ニュータン、 チュータン
		強調	?ケール、ニユール、チュ ン	?カータル、チャンド ー	?ケータンデヤ、チューテイ ー/チュータルバイ
	推量	非強調	?ケールパズイ、ニユール パズイ、チュールパズイ	?カータルパズイ、ン ツチャルパズイ	?カータルパズイ、チュータ ルパズイ
	疑い		?ケーカヤー、チューカヤ ー /ニユールバーガヤー	?カータカヤー / ?カーターヤ、ンチ ヤーヤ、チャーヤ	チュータカヤ / ニューターヤ

表 2 恩納村恩納方言の終止形直説法

			非過去	第一過去	第二過去
直 説 法	断定	非強 調	カミン、ニーン、クーン	カダン、ニチャン、チャ ン	カミタン、ニータン、ク ータン
	断定	強調 文	カミル、ニン、クン	カダル、ニチャンドー、 チャンドー	ニータル、カミタン、ニ ータン、クータン
	推量	非強 調	カミラハジ、ニーラハジ、 クーラハジ	カダラハジ、ニチャラハ ジ、チャーラハジ	カミタラハジ、ニータラ ハジ、クータラハジ
	疑い		カミガヤー、ニーガヤ ー、クーガヤー	カダガヤー、ニチャガ ヤー、チャーガヤー	カミタガヤー、ニタガヤ ー、クータガヤー

琉球諸語のばあい質問法を表す形式について肯否質問文の述語になる形式と疑問詞質問文の述語になる形式が異なることが知られている。本調査票も肯否質問文と疑問詞質問文を複数用意している。沖縄語中南部方言のばあい、カムンナ kamuNna、カムミ kamumi の肯否質問形とカムガ kamuga の疑問詞質問形の現れることが期待される。伊江島方言も肯否質問形と疑問詞質問形は異なる形式が現れる。疑問詞質問形のばあい、中南部方言の疑問詞質問の接辞ガ ga に由来する形式なのか現段階では確認できない。なお、恩納村谷茶、仲泊の二つの集落の方言には疑問詞質問文の専用形式がないことが確認できる。質問文および質問文の述語の発達の形式を知るうえで興味深い。それと同時に、想像以上に地域差の大きいことを念頭に入れておくことが肝要である。

アバーヤ イチ チューンナー。 アチャ チューン。恩納村谷茶方言
(姉さんは いつ 来るの。 明日、 来る。)

アバー 'ウトウン チューンナー。 ンー チューンドー。恩納村谷茶方言
(姉さんの 夫も 来るの? うん、来るよ。)

伊江島方言の確認要求を表す形式は、チューラー（来るだろう）のように古代日本語の推量を表す接辞「む」を含む形式に対応する形式と[?]ケーツァンニ（食べるだろう?）のように否定形に疑問を表す接辞の後接した形式の2つの形式がある。両形あるか、どちらが優勢か等の確認が必要である。なお、前者は琉球諸語の推量を表す形式名詞パズィ padzi、ハジ hadzi が現れる前に存在して推量形の痕跡をとどめるもので、推量文の発達の歴史を知るうえで重要な形式である。

表 3 伊江島方言の終止形質問法

質 問	肯否 質問	非強 調形	[?] ケールバイ、ニール バイ、チュールバイ	[?] カータルバイ、ンチャル バイ、チャールバイ	[?] ケータルバイ、チュータ ルバイ、ニューティー
	疑問 詞		[?] ケー、ニョー、チョー	[?] カーター、ンチャー、チ ヤー、チャール	チューター
	確認 要求		チューラー、/ [?] ケーツァ ンニ	[?] カータラー、ンチャラー	ニュータラー、チュータ ラー

表 4 恩納村恩納方言の終止形質問法

質 問	肯否	非強調	カミンナー、ニンナー、 クンナー	カディナー、ニチナー、 チナー、 ／ニチャンナー	カミティナー、ニーティ ー、クーティナー
	肯否	強調	ニンナー	ニチナー、チナー	ニーティ、クーティ
	疑問 詞		カミゲー、ニーゲ、クー ゲー	カダゲー、ニチャゲー、 チャーゲー	カミタゲー、ニータゲ、 チュータゲー
	確認 要求		カミラヤー、ニーラヤ ー、クーラヤー	カダラヤー、ニチャルヤ ー、チャーラヤー	カミタラヤー、クータラヤ ー、カミテサニ

表 5 伊江島方言の終止形命令法

命 令 法	命令	?ケー／?ケーバ、ニー／ニーバ、フー／フーバ
	意志	?ケンドー、ニュツツア、フーヤー(来ようネ)
	勧誘	?カンナ、ニャンナ、フーヤー(来ようネ)

表 6 恩納村恩納方言の終止形命令法

命 令 法	命令	カムワ、ニルワ、クーワ
	意志	カミハ、ニーハ、クーハ
	勧誘	カマナ、ニラナ、クラナ

2. 2. 連用形

連用形は日本語のシテ中止形に対応するシテ中止形と、日本語のシ中止形（第1中止形）にアリ（有る）が付いて融合したシアリ中止形（第3中止形）がある。シアリ中止形は日本語には見られない形式である。日本語のシ中止形に対応する形式は、形つくりの要素としては存在するが、単独の活用形として文の部分にならない。シアリ中止形は沖縄語の中南部方言に見られ、北部方言には見られない。なお、北部方言の中でも伊平屋島方言および伊是名島方言にはシアリ中止形がある。宮古語、八重山語にも連用形が二つあり、1つはシアリ中止形に対応する中止形で、もう一つはシテ中止形に外見上は似ているが、シアリ中止形にもシテ中止形にも対応しない形式である。

表 7 伊江島方言の連用形

第二	?カーティ、ンチ、チー、マツチ（待つて）、ホーティ（買って）
先行	?カーティラ、ンチーラ、チーラ、ムディーラ（揉んでから）
同時	?ケーチーニャ、ネーチーニャ、チェーチーニャ、

表 8 恩納村恩納方言の連用形

第二	カディ、ニチ、チー、
先行	カディカラ、ニチカラ、チーカラ
同時	カマガシナ、ニヤガチナ、クヤガチナー

2. 3. 連体形

連体形は、文末の述語の表す時間との相対的な前後関係を表す相対的なテンスを表すために非過去形と過去形がある。沖縄語諸方言のばあい、過去形は第一過去と第二過去の二つの形式がある。今回の調査では伊江島方言、恩納村恩納方言ともに第二過去形に相当する活用形は確認できなかった。

調査票の日本語の連体修飾語に対応する活用形に伊江島方言で「腐った肉」に「ツアーリトゥヌ」という継続相非過去形が得られた。恩納村恩納方言では「煮た」「来た」「買った」等の主体動作動詞の連体形は結果相非過去形が得られ、主体変化動詞「枯れた」は継続相非過去形が得られた。文末述語の表す時間との相対的なタクシスを考えるうえで興味深い結果が得られた。

表 9 伊江島方言の連体形

非過去	第一過去	第二過去
?ケール、チュール	?カータル、ンチャル、チャー ル、ホータル(買った)、 ツアーリトゥヌ(腐った)	

表 10 恩納村恩納方言の連体形

カミヌ、ニーヌ、クーヌ、	カダヌ、ニチェーヌ、チエーヌ、 コーテヌ(買った)、カリトゥ ヌ(枯れた)	
--------------	---	--

2. 4. 条件形

条件形のうち、原因・理由を表す形式とうらめ条件を表す形式と対比を表す形式に、文末の述語の表す時間との相対的な時間の前後関係を表す相対的なテンスを表すために終止形と同じく非過去形と過去形がある。沖縄語諸方言のばあい、過去形は第一過去と第二過去の二つの形式がある。今回の調査では伊江島方言、恩納村恩納方言ともに第二過去形に相当する活用形を確認できたが、うらめ条件と対比には第二過去形を確認できなかった。

恩納村恩納方言では理由を表す第二過去形に「煮たから」「来たから」と、うらめ条件を表す第一過去形に「食べたのに」「煮たのに」「来たのに」に対応して結果相非過去形が得られた。連体形と同じく、文末述語の表す時間との相対的なテンスを考えるうえで興味深い結果が得られた。

ヌクホー アタラハグトゥ カマンティカラ ニランコー。(前提)
 (残したもったいないから、食べないなら炊くな。)
 ムシ ?ヤーガ カマンダラー ピージャヌシルヤ ヌクイラパジ。(仮定)
 (もし おまえが 食べなかったら ヤギ汁は 残るだろう。)
 クァンソー カムワカラ ユー ニンバイン。(条件)
 (クワンソウを食べれば眠れる。)

表 11 伊江島方言の条件形

原因・理由 カラ、ノデ	?ケートウ、ニュートウ、チュ ートウ	?カータトウ、ンチャトウ、チ ャートウ	?ケータトウ、ニュータトウ、 チュータトウ
うらめ ノニ	?ケースイガ、ニュースイ ガ、チュースイガ、 /ニュールムン	?カータスイガ、ンチャスイ ガ、チャースイガ、 /ンチャルムヌー	
対比 ガ		ニチャスイガ(煮たが)	
前提 ナラ	ニューラー、チューラー		
条件 レバ	?ケー、ネー、ケー		
契機 タラ	?ケー(食べたら)、ネー(煮たら)、ケー(来たら)		
譲歩 テモ	?カーティン、ンチン、?チン		

表 12 恩納村恩納方言の条件形

原因・理由	カミグトゥ、ニーグトゥ、クー グトゥ	ノータグトゥ(治ったから)、 プータグトゥ(掘ったから)	カミタグトゥ、ニーテグトゥ、 クーテグトゥ
うらめ	カミグァー、ニーグァー	カデグァー、ニチェグァー、 チェーグァー	
対比的	プーグァー(掘るけど)		
仮定			
前提	カミティカラ、ニーティカラ、クーティカラ		
条件	カムワカラ、ニーヤ、クーヤー		
契機	カダラ、ニーヤ、クーヤー		
譲歩	カディン、ニチン、チャンテン		
目的形	カミガ、アスピガ、		

表 13 恩納村恩納方言の完成相否定形の終止形

			非過去	過去
直 説 法	断定	非強調文	カマン、ニラン、クーン	カマンタン、ニランタン、クランタン
	断定	強調文	クラン	ニランタン、クランタン
	推量	非強調形	カマンラハジ、ニランハジ、クランラハジ	カマンタラハジ、ニランタラハジ、クランタラハジ
	疑い		カマンガヤー、ニランガヤー、クランガヤー	カマンタガヤー、ニランタガヤー、クランタガヤー
質 問	肯否	非強調形	カマンナー、クランナー	クランタンナー、ニランティナー、
	肯否	強調形	カマンル アンナー、ニランドゥ アンナー	カマンル アティナー、ニランティナー、ニランドゥ アーティ、クランドゥ アティナー、クランタンナー
	疑問詞		カマンゲ、ニランゲ、クランゲ	カマンタゲー、ニランタゲ、チャーゲー
	確認要求		カマンラヤー、ニランサニ、クランダラヤー	カマンタラヤー、ニランタラヤー、クランタラヤー
命 令 法	禁止	カムナ、ニーナ、クンナ、 ニーナクア、ムットウナクア(持つな)、タットウナクア(立つな)		

表 14 恩納村恩納方言の完成相否定形

連 用 形	カマングトウイ、チカングトウイ(聞かないで)		
	ニラナ、クラナ		
連 体 形	カマン、ニラン、クラン		カマンタヌ、ニランタヌ、クランタヌ
	カマンヌマル、クランヌマル、 ニランヌマードウイ、クランヌマードウイ		
条 件 形	原因・理由	カマングトウ、ニラングトウ、クラングトウ	カマンテグトウ、ニランテグトウ、クランテグトウ
	うらめ	カマンガァ、ニラングァ、クラングァ カマンムヌ、クランムヌ、ニランムヌ	カマンテグァー、クランテムヌ
	仮定	カマンダラー、クランタラ、ニランダラ、ニランダラ	
	前提	クランティカラ	
	条件	カマンダラ、ニランダラ、クランダラ	
	契機	カマンダラ、ニランダラ、クランダラ	
	譲歩	カマンティン、ニランティン、クランティン	